

2026年度
入学試験問題

国 語

2月1日 午後

受験番号	氏 名

中村中学校

問題は次のページからです。

一

次の(1)～(10)の――線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) キンロウ感謝の日はゆったり休む。
- (2) カクセイ器の音量を調節する。
- (3) ゲンジュウに戸じまりをする。
- (4) 生物界の頂点にクンリンし続ける。
- (5) 友だちの前でテイサイをとりつくろう。
- (6) ダントウのせいで初雪がおそい。
- (7) 長い文をアツシユクする。
- (8) ケワしい山道を歩く。
- (9) 毎日をホガらかな気持ちで過ごす。
- (10) かきの実が真っ赤にウれている。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

《 第一段落 》

希望、夢、幸福などと並んで、近年とみに重要視されている価値観が、安心です。

安心は、希望とは大きく異なるものです。安心が今日これだけ注目されるようになったのは、それだけ不安が広がっていることの裏返し^①です。将来の先行きが見えないとか、経済の不確実性が高まっているという思いが、安心を求める気持ちを強めているのです。

では、どうすれば安心は得られるのでしょうか。

□ 老後の生活の問題で、政府が「安心してください、年金は必ず受け取れます」といったとします。□ b、それが確実に保証されているという見通しがなければ、安心はできません。安心には確実であることが欠かせない

10

条件です。

それに対して希望は、先行きが確実にみえているわけではありません。□ c 希望は、きびしい状況^{じようきよう}のなか

で、先がみえないからこそ、勇気をもつて前に進むために必要とされるものです。ある程度の見通しを持てたほうが希望は持ちやすいことありますが、かといって先が完全にみえてしまっているのであれば、希望など持つ必要もなくなります。

希望を持つとは、先がどうなるかわからないときでさえ、何かの実現を追い求める行為^{こうい}です。安心が確実な結果を求めるものだとなれば、希望は模索^{もさく}の過程(プロセス)そのものなのです。

不安が大きい社会では、つい□ なものを求めがちになります。しかし不安を招きやすい、変化の激しい時代には、かつて□ と思っていたものが、あつという間に役に立たなくなったりします。

いつとき、プロ野球の世界で「勝利の方程式」という

30

25

20

15

いい方が流行したことがありました。先発ピッチャーが交代した後、二番手は誰、だれその後の三番手は誰、そして最後の抑えは誰と確実に決めておけば、勝利に結びつきやすいと考えられました。

※

◆ の勝利の方程式など、あつたら安心ですが、本当はどこにもないのです。

希望も同じです。どうすればもつとよい将来をもたらすことができるかを考え、ときに思い悩みながら、試行錯誤さくごを続ける。そこから希望は、生まれるのです。

安心に比べれば、希望には、不安や不確実性がつきものです。でも、みんなが安心を与えられることばかりを求めて、自分から模索することを望まない社会なんて、実におもしろみのない社会です。

《第二段落》

私は若い人に安易に「頑張れ」がんばといいたませんが、「希望を持て」ともいいません。個人的にはどの言葉は使つてよいとか、どれは使つてはいけないといった統制のようなことは好きではありません。ですが、それでも希望という言葉は、「頑張れ」と同じように、やはり気をつけて使わないといけないと思っています。そして注意して使うことによつて、希望という言葉が、未来に進むための力を与えてくれることもあるのです。

② 将来に対して希望を持っていない人は、たくさんいます。年齢ねんれいの若い人は、一般的には年齢の高い人よりも希望いっばんてきを持つてることが多いものです。しかし、すべての若者が希望に満ちあふれているわけでもありません。

そして希望を持つていない理由は、希望など持たなくとも、今がとても充実じゅうじつしていて、もう何も望むものが無いといった幸福な状態であるためばかりでもない。むしろ、^③多くの場合、持ちたいと思つても、どうせ持てない

と、あきらめていることが多いように思います。

65

希望を本気で持とうとすれば、考えたり、ときには悩^{なや}んだりしないといけないこともあります。悩むことを放棄^{ほうき}してしまえば、希望は育んでいけません。

ただ、希望がないという人も、心の奥底^{おくそこ}では、無意識の場合も含めて、何らかの希望を求めていることが少なくないのではないのでしょうか。特に家庭や職場、学校などで、きびしい状況に直面している人ほど、その状況を変えるための希望を本当は必要としているのではないかと思うのです。しかし、方法を知らないために、希望づくりをあきらめているのです。

75

私は希望の話をするときには、「持て」とか「持ったほうがいい」とはいいません。そのかわりに、希望学で学んだ、希望をつくるための一つのヒント^{しんとうかい}を紹介することになっています。

それは希望とは何かということにまつわるヒントです。

80

Hope is a Wish for Something to Come True by Action.

この英語を踏^ふまえながら、私はこんなふうに、いつも高校生にしゃべってきました。

85

「希望について、多くの仲間と研究をしてきましたが、最初は希望とは何なのか、よくわかりませんでした。それがいろいろ考えるうち、どうやら希望^④というのは、四つの柱から成り立っていることがわかってきました。その四つをこれから紹介します。

90

一つはウィッシュ(wish)、日本語にすれば「気持ち」とか「思い」「願い」と呼ばれるものです。オリンピックやワールドカップなどのスポーツで、決戦を前にした選手がよくこんなことをいいます。「こうなったら、もう技術がどうのこうのということじゃない。最後は気持ちの問題。気持ちで勝つか、負けるかです」。この「気持ち」というのが、希望にはまず必要です。

95

二つ目の柱は、あなたにとっての大切な「何か」、英語

でサムシング (something) です。将来、こうありたい、ああなつてほしいという、何か具体的なことがある。その何かが、世界平和という人もいれば、毎日三回ご飯が食べられることという人もいる。でも、希望に大きいも小さいもない。重要なのは、何とかしたいという自分にとっての大切な「何か」を見定めることです。何でもい

いから、なんとかなつてほしいということは、だいたい何ともなりません。

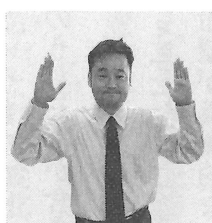
三つ目の柱は、カム・トゥルー (come true)、「実現」です。ドリームズ・カム・トゥルーは「夢が実現する」という意味です。どうすれば、実現する方向に近づいていくのか。そのための道すじとか、踏むべき段取りを考

えることです。たとえ実現がむずかしかつたとしても、近づくことはできる。どうすれば望みがかなえられる可能性が高まるのか。学習したり、情報を集めたりすることも大切です。

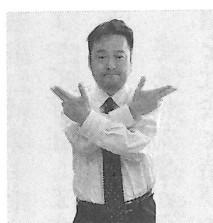
110

105

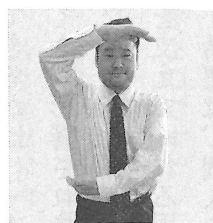
100



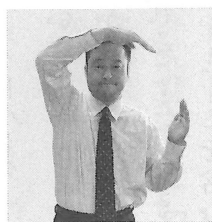
Hope is



a Wish



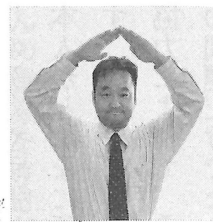
for Something



to Come



True



by Action

著者による「希望」のポーズ

柱のうち、どれかがまだみつかっていないのか

130

う人がいるとすれば、「気持ち」「何か」「実現」「行動」の四本

125

今、希望が持

最後の四つ目の柱はアクション (action)、つまり「行動」です。どんなに目標を定めて、すばらしい作戦を立てたとしても、そのための行動をしなければ、希望をかなえることはできません。行動を起こすことは、ときに勇気が必要だったり、不安や苦しいこともあります。でも行動を起こさない限り、状況を変えることはできないんです。

120

115

もしれないですね。まずは自分にとってどの柱がみつ
つていないのかということから、考えてみましょうか」。

こんな話をよくしています。ときには冒頭^{ぼうとう}の英語をメ
モしてくれる人もいます。印象的におぼえてもらえるよ

う、その四本の柱について、英語の頭文字をとって、「W
(Wish)」「S(Something)」「C(Come)」「T(True)」「A

(Action)」を身振り^{みぶ}付きでやったりしていました(「著者
による「希望」のポーズ」参照)。

希望を持て持てと声高に叫^{こわだ}ぶよりは、希望には四つの

柱があつて、その柱を自分でみつけることから希望は始
まるという話をするほうが、ずっと通じあえるようです。

(玄田有史『希望のつくり方』岩波書店)

140

問一 ――― 線「とみに」のここでの意味を次から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア、おおまかに イ、しきりに

ウ、反対に エ、自由に

135

問二 ――― 線①とありますが、その説明として適当な

ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、安心を望む思いが強まっているということは、そ
れだけ将来を心配している人が多いということ。

イ、安心が注目されていることは、それだけ今
後の成り行きを期待している人が増えているとい
うこと。

ウ、安心を希望する人が増えていることは、そ
の分、希望を持たざるを得なくなってきたとい
うこと。

エ、安心を第一に考えていることは、不安は二
の次になってしまうということ。

問三

a

く

c

にあてはまる言葉を次か

らそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、むしろ

イ、たとえば

ウ、しかし

エ、したがって

問五

※

には次の四つの文が入ります。正しい順序に

並べかえたものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

A そうなれば、状況の変化にあわせて方程式を変え

ていかなければなりません。

B たしかにそれで成功したチームもありましたが、

そんな成功もふりかえってみれば、一時的なものにすぎませんでした。

C チームのピッチャーの状態も変わりますし、相手

チームの打線の特徴も年々変わっていくでしょう。
とくちょう

D 勝利の方程式があれば、安心してピッチャーの継投策を考えることができます。
つぎ

問四

二か所ある

に共通して入る言葉を本文中か

ら二字でぬき出して答えなさい。

ア、 B → A → C → D イ、 B → D → C → A

ウ、 D → B → C → A エ、 D → C → A → B

問六 ◆ に入る言葉を次から一つ選び、記号で答えな

さい。

ア、日進月歩

イ、一期一会 いちごいちえ

ウ、四苦八苦

エ、永久不変

問七 《第一段落》を読んで、「希望」についての説明と

して、適当ではないものを次から一つ選び、記号で

答えなさい。

ア、先行きがわからないからこそ、前に進むために必

要なもの。

イ、変化の激しい将来を考えて、確実な結果を求める
もの。

ウ、不安な未来に向けて何かの実現を追い求める行為
そのもの。

エ、心配される社会を案じ、探し求める経過のみちす
じそのもの。

問八

—— 線②、③とありますが、筆者は「希望」を

持っていない人の状況をどのように考えています
か。解答らんに合うように四十字以内で書きなさい。

問九 ——— 線④について四人の生徒が話し合っています。

す。この中に一人だけまちがって理解している人がいます。それはだれですか。答えなさい。

Aさん 希望がどのようなものか、少しわかった気がするよ。特に一つ目の柱の「気持ち」をまず持つことが必要なだね。スポーツにおいても、最後は気持ちの勝負だという話はよく聞く話だね。

Bさん その際に、二つ目の柱のこうありたい「何か」を具体的に考える必要があるみたいだね。なんでもよいからなんとかなってほしいと願い続けることが大事みたいだね。

Cさん その「何か」を具体的に考えることができたら、

三つ目の柱の「実現」のために段取りを考えていくことが必要なだね。どうすれば望みがかなえられるのか、情報収集しないとね。

Dさん ただ段取りを考えただけでは進まないよ。最後に必要なのは、四つ目の柱の「行動」だね。勇気を出して行動に移すことができないと、現状を変えることはできないんだ。

問十 《第二段落》を読んで、「希望」に対する筆者の考

えとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、希望を持つことをすすめるよりも、希望のポーズを広く全体に教えたほうが、不安が取り除かれやすい。

イ、希望を持つとうとうたえかけるよりも、希望の作り方は自分自身で考えてもらったほうが、誤解を生まなくてよい。

ウ、希望を持つのは、本人の気持ちの問題であるから、「頑張れ」とはげますことも、実はとても大切だ。

エ、希望を持つべきだと伝えるよりも、希望の作り方である四つの柱を見つけることをうながしたほうが、はるかに理解されやすい。

問十一

この文章は、「希望」について主に書かれていますが。あなたが望む「希望」について、次にあげる1～3に注意して自由に書きなさい。

1 どのようになりたいか（したい、なつてほしい等）を書くこと。

2 実現のための計画を書くこと。

3 どんな行動を取っていききたいかを書くこと。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

ドッジボールが大好きな小学六年生の翼^{つばき}は、となりのクラスのライバルに勝つために、日々強いボールを投げる練習を重ねており、クラスでは一番うまいと自信を持っている。しかし、他の子にボールを回そうとしない翼に不満をもっていた同級生の佑希^{ゆうき}とケンカになり、そのことがきっかけで、翼は学校に行きにくくなってしまった。その後、翼は、びわ農家を営む母の実家で、曾祖父^{そうそふぼ}父母、祖父父母、そして通信制高校に通ういとこのまいと過ごしている。今は、まいが自分自身が学校に行けなくなったときの話を翼にしているところである。

「翼たちの学校にも女子のグループがあると思うんだけど、わたしが中二のときも、グループでリーダーだった子がいたの。その子は、どんなことでも自分や自分のチームやグループが一番でないと気に入らなかったの。もちろん頭もよかったし運動もできたし、みんなも認めてたんだだけ」

ど、時々、友だちを傷つけるような言い方をしたんだ」

ぼくは（A）をかしげた。

「傷つける言い方って？」

「例えば、あなたは下手だからこうしてねとか、できないんだから変にでしゃばってみんなに迷惑^{めいわく}かけないでねとか」

「あ……」

『おまえが下手だからだろう。ボールもまともに投げられないくせに』

自分の言葉が、そのリーダーの子に重なった。

「わたしと一番仲良かったミヤちゃんも、何かにつけてそういう言い方されるから、けっこう傷ついてたんだ。確かに体育のどんな種目もその子は上手だったし、調べ学習や発表も要領がよくて上手だった。ミヤちゃんもわたしも、その子みたいにはできないし、迷惑かけてるのかなって思ってたけど『もつと上手にできないの?』とか、何度も言

われるとやっぱりいい気分はしないでしょ。みんな傷つくのに。その子はそれに気が付かない。でもこっちは、^①どん
どん積み重なっていったの」

下手なのにボールをとりたがる、佑希のことをいつもそ
う思ってた。口にも態度にも出していた。

『だって、ドッジボールのとき、翼ばかりがボールをもつ
て、ぼくたちに全然まわってこないし、楽しくないからで
す』

あの言葉には、まいちゃんたちみたいに「積み重なった 30
もの」があつたのか？ ぼくが当てるから、みんなは逃^にげ
ればいなんて勝手な作戦は、佑希だけじゃなく翔平や
他の子、みんなを傷つけていたのか？ 胸の奥で^{おく}うずくよ
うな痛みを感じた。

「中二の終わりぐらいのときに、わたしがちよつと X 35
の味方ぶって言ったんだ。『もうちよつと優^{やさ}しく言っ
てほしいな。そのほうがわたしたちもやる気ですし』って。
そしたらね、その子、^{おどろ}驚いた顔してた。それで、次の日、

学校に来なかったんだ。理由は、わたしがいじめたからだ
って」

^② ぼくは、言葉がでなかった。

^③ 「びっくりしたよ。いじめって何？ でも、先生にも促^{うなが}
されて、その子の家に一応謝^{あやま}りに行つたんだ。お互^{たが}いに
ごめんねって感じだった。だけど、なんで自分勝手に自己
中心的なその子に謝らなきゃいけないのか、どうしても納^な
得^{とく}できなかった」

目の前がぐらぐらする。自分勝手に自己中心的なぼくは、
勝手に学校を休んで、あいつらの顔を見ないようにして、
考えないようにしていた。

「わたしの学校一クラスしかないから、クラス替^がえないの
よね。中三になったときその子は、他のグループを作った
の。そしたら、いつの間にかわたしがいじめっ子みたいな
空気が流れるようになって……、それでも仲良しのミヤチ
やんがいたからなんとか過ごしてたんだけど、ゴールデン
ウィークのあとに、ミヤちゃんが転校しちやつたんだ」

まいちゃんにならわかってもらえるって思ってた。けど、
とんでもなかった。

「ぼくは……そのリーダーの子と同じだ」

「え？」

「ドッジボールでライバルに勝ちたくて、下手なやつにボ
ールわたしたくなくて、他の子のことなんて考えないで、
④自分勝手に作戦をたててたんだ。そしたら、不満が爆発し
たやつとケンカになって、怪我^{けが}をして、結局ドッジができ
なくなった。ぼくは悪くないと思ってた。でも、ぼくも悪
いのはわかってた。だからって謝るなんてできなかった。
ぼくだって、ひきようなやり方でボールを当てられた。
そのあと嫌^{いや}な態度をとられたから『死ね』って言ったし
『死ね』って言い返された。みんながぼくを無視するから
ぼくも無視して、でもそうしたら学校にいる間ずっと気分
が悪くなって……」

まいちゃんが驚いた顔をした。

「でもどうしたらいいんだよ。学校にもどって謝ればいい

70

65

60

の？ 表面だけ謝っても解決しないだろ^⑤ こんな気持ちを
どうしていいのかわからなくて、まいちゃんに話したかつ
た。でも……」

のどがカラカラになった。まいちゃんは黙^{だま}ったままだ。

「まいちゃん、ごめん」

ぼくは、走って家にもどった。

あれからもう三日、まいちゃんに会っていない。

まいちゃんに話せば、ぼくの味方になってくれて「翼は
悪くないよ」って言うってくれるんじゃないかって、どこか
で期待してた。でもやっぱりそんなことはなかった。ぼく
が原因だってはっきりしただけだ。ぼくのジコチューな行
動と問題を起こして、そして、勝手に気持ちが悪く
なって学校に行かなくなった。

先生に呼ばれたとき、適当に謝ればよかったのかな。そ
うすればここまでならなかったのかな。でも、そんなこと
したらもつと嫌な気持ちになっていたにちがいない。それ
に、ぼくの気持ちは、きつとリーダーの子とは違^{ちが}う。佑希

85

80

75

もまいちゃんと同じじゃない。

90

佑希はどう思っているんだろう。ぼくが学校に来なくな
って、ざまあみろって思ってるのかな。もしかしたらヤバ
イと思ってるのかな。

また頭が混乱してくる。ぼくは一体どうしたらいいんだ。

「翼、どうした？」

95

健一じいちゃんが将棋盤しょうぎばんをもってきた。

「あ、ちよつと学校のこと考えてた」

「そうか。学校に、鹿児島市にもどるのか？」

「そうじゃないけど」

「そうか。ほいなら、とりあえず勝負でもせんか」

100

「うん」

やっぱまいちゃんも、ぼくにがっかりしたのかもしれ
ない。他人に嫌な思いをさせておいて、反省もしないで、

自分の都合で具合が悪くなっているんだから。

「おい、駒こまの置き方がうぞ」

105

健一じいちゃんに言われ、あわてて並べ直したときだ。

「つーばさ、もってきたよ」

まいちゃんがいつもと変わらない笑顔えがおであらわれた。

《 中略 》

110

「じいちゃん、久しぶりに、わたしと勝負しない？」

「よかよ。ほんとに久しぶりじゃ」

ぼくをおしのけて、まいちゃんが将棋盤の前に座すわった。

ぱちんと、まいちゃんの歩※ふが動いた。ぱちんと健一じいち

やんの歩も動く。まいちゃんの飛車※ひしやが動いて健一じいち

んがじつと考える。今度は健一じいちゃんの角※かくが動いてま

いちゃんがじつと考える。まいちゃんの桂馬※けいまがすすみ、

健一じいちゃんの歩があがる。一つ駒が動いたたび、二人は

じつと考える。勝負は、なかなかすすまない。

120

「まいは考える時間が長い」

「そういうじいちゃんだつて」

壁かべの時計が五回鳴った。

「あのさ、わたしも色々考えさせられたよ」

「何をよ？」

健一じいちゃんが腕うでを組んだまま盤上を見ている。

「じいちゃんのことじゃないって。翼のこと」

「え？」

まいちゃんがぼくを見ていた。

⑥「そうか、翼はそうだったんだって。でも、不思議だった。

翼とわたし、立場は反対なのに、同じ気持ちになつてるつ

てこと。そうかあ、そうなんだって、何度も何度も思つた

よ。翼の気持ち、教えてくれてありがとう。なんだろうね、

反対なのに同じって、おもしろいなあって」

「なんでだよ。ぼくは嫌なやつだよ。まいちゃんにとつ

てのリーダーの子だよ」

健一じいちゃんが、ぼくとまいちゃんの顔を交互ひきつに見て

（A）をかしげている。

125

「わたしもあのころは自分のことしか考えられなかった。

でも、こうやって自分以外の気持ちにも目を向けることつ

て大事なんだね。あのころ、少しでも心に余裕よゆうがあれば、

もしかしたら、また別の選択肢せんたくしがあつて、リーダーの子と

の関係も違ったのかもしれない。でも、こういうことつて

本当にいろんなタイミングとか、それぞれの気持ちとかが

あるし、正解なんてないことだからさ。翼と話ができてよ

かったよ」

「なーにを言うちよつか（言ってるんだ）」

健一じいちゃん是不思議そうな顔でぼくたちを見た。

「わたしも、また一歩前にすすめた気がする。そう思える

までに三日かかったけどね。わたしもやつぱりまだまだだ

よ」

「そんなこと……」

まいちゃんは三日、ぼくの気持ちと向き合ってくれた。

リーダーの子と同じ立場のぼくは、悪いやつだったはずだ。

なのに、立場が違つても嫌な気持ちは同じなんだって言っ

155

150

てくれた。リーダーの子とも、もしかしたら違う関係になれたのかもしれないって。そこまで考えてくれた。

「ほお、ようわかつちよるが。まいは、まだまだじゃ。よし、これでどうだ」

健一じいちゃんが、駒を動かした。まいちゃんは、はつと盤上を見た。

「えー、じいちゃんずるい」

「ずるいもんか、ぺちやくちやしやべつてるからだ。何事も集中」

健一じいちゃんは、うひよひよと笑った。

「待つて、ちよつと待つて、まいちゃんこつちだよ」

ぼくは、駒を動かした。

「なるほど、いいじゃん、翼」

「しまった、気付かれたか。うん、なかなか（B）がいいぞ、さすがおいの孫じゃが」

「じいちゃんの動かし方、だいたいわかってきたよ」

「何を偉えらそうに。孫たち相手に、わかりやすくしてやつて

170

るだけじゃ」

「へー」

「そうくるなら、これでどうじゃ。王手も近いぞ」
また健一じいちゃんが次の一手を打った。

「あ、ヤバイ。そうきたか……。あ、でもこつちに行けば大丈夫だいじょうぶ」

ぼくは、次の一手に気が付いた。

「ほう、なかなかやるなあ」

健一じいちゃんの駒がこう来れば、こつちの駒はこう動かせばいい。守ったり、攻めせたり、逃げたり。

ぼくもきちんと向き合わないといけない。佑希の言葉ややったことにイラつくばかりで佑希の気持ちなんか考えなかった。自分が悪かったことも、わかっていたのに認めるのが嫌だった。自分の中で動けなくなっていた駒。どう打てば進むことができるのか。ぼくができる一手。

「そいなら、こつちはこの駒にまかせて、こうもどるか」
ばちゃんと健一じいちゃんの駒が動く。

190

180

175

「あつ」

そうだ、ひとつの駒にこだわらなくていいんだ。逃げてばかりだと、進まない。行き詰^づまったら別の方法を考えればいい。佑希だって、今はもやもやして次にすすめないでいるかもしれない。ぼくが将棋みたいに駒を進めれば、佑希も次の一手が打てるんじゃないかな。⑦ ぼくの一手が、佑希との関係を良くすることができるのなら……。

「学校に、もどって……みようかな……」

「なんち? (なんだって?)」

健一じいちゃんが顔をあげた。まいちゃんもぼくを見た。

でももし、それでも行き詰^づまったら、別の方法を考える。

そのときは、離^{はな}れることも選択肢の一つだ。

「一度きちんと向き合ってみる。でもさ、もしだめなとき

は、またもどってきていい? 垂水からまいちゃんのフリ

ースクールに行くことも考えていい?」

しばらく二人は黙っていた。でも健一じいちゃんがつと笑った。

「よかよか。やってみろ。しかし、さびしくなるなあ。将棋相手がおらんようになる」

まいちゃんもうなずいた。

「そうだね。いいと思うよ。じいちゃんはさびしがらなくていいよ。将棋の相手はわたしがしてあげるから」

ぼくは二人を見てうなずいた。

⑧ 「将棋って、おもしろいね」

自分で言っておかしくなった。地味で静かで難しそうだと思っていた将棋なのに、おもしろさが少しわかった気がした。

(もりなつこ『びわ色のドッジボール』文研出版)

※歩、飛車、角、桂馬……いずれも、将棋の駒の種類を表す。

問一 (A)、(B) には、体に関係する語が入ります。そ

れぞれ適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、耳 イ、筋 ウ、首 エ、背 オ、顔

問四 ——— 線②とありますが、それはなぜだと考えら

れますか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、まいちゃんが同級生をいじめるような子だとは、とても信じられなかったから。

イ、まいちゃんと自分の立場があまりにも似ていることにおどろいたから。

ウ、まいちゃんの話に出てくるリーダーの子と自分が重なって見えたから。

エ、自分がクラスメイトを傷つけたことをまいちゃんに気づかれたと思ったから。

問二 ——— 線①とありますが、何が「積み重なって

いった」のだと考えられますか。五字以上十字以内で答えなさい。

問三 X に入る言葉を自分で考え、漢字二字で答えな

さい。

問五 ——— 線③とありますが、まいちゃんは何に「び

つくりした」のですか。五十字以内で説明しなさい。

問六 ——— 線④とありますが、この「作戦」について

具体的に説明している部分を本文中から二十七字でさがし、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問七 ——— 線⑤とありますが、どんな「気持ち」です

か。次から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分の身勝手な考えで行動したことを反省はしているものの、相手にも悪いところがあるから、一方的に自分だけが謝るのは納得できないという複雑な気持ち。

イ、まいちゃんなら自分の苦しさをわかって味方になってくれるだろうと思っていたけれど、そうではなかったと気づき、ショックでぼう然とした気持ち。

ウ、ケンカになったのは本当は自分のせいだったとよ

うやく考えられるようになり、うわべだけでなく心から自分の行いを反省しなくてはならないと思

い直す気持ち。

エ、自分に嫌な態度をとったり無視したりしてきた人たちに對して、不満をぶつけてからでないと、自分も心から謝ることはできないという自己中心的な気持ち。

問八 ——— 線⑥について、

- (1) 翼とまいの「立場」が「反対」とはどういうことですか。次の（あ）、（い）に入る内容を本文中の語句を用いて答えなさい。

翼は（ あ ）立場だが、

まいは（ い ）立場だということ。

- (2) 「同じ気持ち」を具体的に表したものを、本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問九 ——— 線⑦とありますが、ぼくはこのあと「一手」

として具体的にどのような行動に出ようとしていますか。三十字以内で答えなさい。

問十 ——— 線⑧とありますが、翼がのように思えたのはなぜだと考えられますか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、将棋は、少し覚えるだけで年上の相手にでも立ち向かっていくことができるゲームなのだと気づいたことで、同級生とうまういかなくても色々な年代の人と関わればよいと思えたから。

イ、自分には向いていないと思って将棋から逃げていたが、将棋のやり方を教わったことで、ドッジボールだけしかおもしろくないという自分のかたよった考えに気づくことができたから。

ウ、将棋は、自分の考えだけで自由に駒を動かし楽しめるゲームだと分かったことで、また学校に行けなくなっても、友達とケンカしてもかまわないと気楽に考えられるようになったから。

エ、ひとつの駒にこだわらずに、相手の動きに応じて自分の持ち駒をどう動かすか考えるという将棋の戦い方を知ったことで、自分もそのようなしなやかな考え方をすればよいのだと気づけたから。

オ、ひとつの駒にこだわらずに、相手の動きに応じて自分の持ち駒をどう動かすか考えるという将棋の戦い方を知ったことで、自分もそのようなしなやかな考え方をすればよいのだと気づけたから。

